

8020運動及び歯科口腔保健の推進に関する検討評価委員会における意見(フッ化物洗口)

1 連携体制の強化

(1) 地方関係団体への働き掛け

- ・「歯科医師からフッ素入り歯みがきの普及により必要ないのではとされている」との回答があるが、県歯科医師会としてはフッ化物洗口に対してそのようには考えていない。
- ・県歯科医師会から郡市歯科医師会に対する、フッ化物洗口事業への協力については県からの通知があれば可能である。

(2) 役割の確認

- ・施設等がフッ化物洗口に取り組みやすいようにするためには、フッ化物洗口の実施に係る責任の所在を明らかにすることが大事ではないか。

2 施設管理者・職員への啓発

(1) 施設管理者への働き掛け

- ・フッ化物洗口に取り組んでいる施設等であっても、その管理職(責任者)が替わるとそれまで取り組んできたものができなくなる。管理者の方の理解を得ることが重要である。

(2) 施設職員への働き掛け

- ・市町村職員や施設職員に研修会を実施すると、フッ化物洗口に対する理解はしてもらえる。
- ・多忙で実施できないとの意見もあるようだが、実施してみるとそれほど大変ではないとの意見が聞かれる。

3 洗口以外のフッ化物事業の実施

- ・フッ化物洗口以外のフッ化物事業としてフッ化物塗布があるが、これらを受けにくるのは歯科口腔保健に対する意識の高い家庭であることが多い。そこに来ない意識の低い家庭に対する働き掛けが重要である。
例えば、子ども食堂等でのフッ素入り歯みがき剤を用いた歯みがきを実施してはどうか。

4 保護者理解の推進

- ・フッ化物洗口の実施に限らず、むし菌の多い子どもに対するアプローチには保護者の理解が必要である。

今後の検討事項

フッ化物洗口の実施に係る
通知方法の調整

フッ化物洗口の実施に係る
役割分担の周知及び
研修による不安の解消

施設職員研修の対象者拡充

施設職員研修の実施

関係機関・部署との対応協議

既存事業の継続